

主題	養護老人ホームの利用者に向けた口腔ケアの取り組みとその成果について		
副題	「いつまでも歯っぴいーに美味しく食べよう！」 職員の積極的な関わりによる利用者のモチベーションの向上		
口腔ケア		意識改革	
研究期間	5ヶ月	事業所	養護老人ホーム 大森老人ホーム
発表者：堀 亜沙美(ほり あさみ)		アドバイザー：関口 晴子（歯科衛生士）	
共同研究者：諏訪 博子 他支援員、相談員、栄養士、看護師			
電話	03-3762-8851	メール	oomori_sien2kai@dolphin.ocn.ne.jp
FAX	03-3762-8920	URL	http://www6.ocn.ne.jp/~sousei4/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	平成9年に開設した大田区にある定員130名の養護老人ホームでデイサービスセンターが隣接されている。都営住宅や体育館、児童館などがある複合施設の1階から4階までが施設となっている。 全室個室で、各居室にはトイレと洗面所が設置されている。現在33名（25.4%）の方が介護認定を受けており、述べ53名が介護サービスを利用している。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

●大森老人ホームでは利用者の口腔機能の維持、向上を目的とした取り組みとして、平成23年5月より昼食までの待ち時間に、食堂前で2階の利用者を対象にカセットテープを使用して職員と一緒に口腔体操を始めた。

1年以上経過したが、利用者の参加率は停滞気味である。

このような状況の中で、食事中にむせたり、詰まらせたりする利用者が増加してきた。

●職員の口腔ケアに関する意識は、大切だと認識を持ちながらも“具体的にどう大切か”を検討する機会を持たずにきた。

これまで取り組んできた口腔体操もある時期からテープを流し、利用者の自主性に任せることが多くなってきている。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

これまで行ってきた口腔ケアへの取り組

みを見直し、次の3点を目標とした。

①利用者全体

口腔ケアについて関心を持ち、自主的に取り組めるプログラムを作成する。それによって、利用者の口腔機能の維持・向上に繋げていく。

②口腔ケア教室参加者

3か月間の教室を実施し、事前・事後の評価を“見える化”し、個別の口腔機能向上を確認する。

③職員

口腔機能の知識を得るとともに口腔ケアの重要性を職員全体が理解し、技術の向上を図る。

《3. 具体的な取り組みの内容》

●利用者の口腔ケアの実施状況と歯の状況についてのアンケート調査の実施

●利用者全員を対象にした歯科衛生士による、口腔機能講座の実施

●上記の講座に参加した利用者の中から1名を選出し、月に2回、歯科衛生士による口腔ケア教室「いきいき健口タイム」を開始→職員等が継続的に支援することにより、口腔機能の状態や意識の変化などの効果を調査

●対象フロアを広げ、2階のみで行っていた口腔体操を全館放送に切り替え、より多くの利用者が口腔体操を行うようにした。職員も雰囲気作りを大切にしながら利用者とともに体操をすることとした。

●「喫茶」の時間を活用し、週に1～2回、簡単な口腔体操やレクを開始。口腔体操やレクで多くの職員に関わってもらえるよう、口腔ケア担当職員が中心になり職員に研修の実施

※喫茶…週に3～4回、水分補給や閉じこもり防止を目的とし、ボランティアの協力も得て、コーヒーや紅茶を提供する時間

●利用者向けに「いきいき健口だより」を発行

●各々の身体状況・嚥下能力にあった飲食方法があることを知ってもらうために、毎月栄養士が中心に行なっている「お食事懇談会」にて、利用者にトロミを付けた水分の試飲

●職員研修として、歯科衛生士による口腔機能講座を行い、意識の向上を図った。

《4. 取り組みの結果と考察》

●アンケートの結果、予想以上に歯磨きの習慣がある利用者が多かった。また歯磨きや義歯の手入れの仕方に疑問を持つ利用者が多く、意識が高いことが分かった。口腔ケア教室への関心も高く、参加者はみな積極的に口腔体操などに取り組むようになった。

●食事前の口腔体操テープを全館放送し、職員が関わることで参加する利用者が増えた。

●大勢が集まる場が苦手な利用者にも、紙面を通して意識の向上を図った。配布のメリットは紙を見ながら各自の居室で体操を行えることである。

●喫茶の時間を活用することで、あまり関心のなかった利用者にも取り組んでもらえた。

●トロミを付けた水分の試飲を通して、利用者が嚥下能力に応じた様々な食事形態があることを理解できた。また、自身の食事形態に関心を持ってもらう機会となった。

●職員研修を通じ、職員全体の知識習得や意識の向上に繋がった。また利用者の自主性に任せるだけでなく、職員が積極的に関わっていく雰囲気作りができた。

《5. まとめ、結論》

自身の「健口」に関心のある利用者が多い中で、これまでは意識的に口腔ケアに取り組む機会がなかった。しかし、歯科衛生士の講座を通して「なぜ口腔ケアが大切なのか？」ということを利用者と一緒に職員も学ぶことに繋がっている。短期間の取り組みではあったが、職員の積極的な関わりがあることで利用者のモチベーションを維持・向上できることが分かった。今後も取り組みを継続していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本発表にあたっての配慮として、本法人の個人情報保護規程に基づき、不特定多数の第三者に個人が特定されるような情報として公開しないことを説明している。

《8. 提案と発信》

養護老人ホームの利用者も、心身の機能低下が顕著な方が増えている状況にある。当施設では、口腔ケアを積極的に行っている利用者もいる一方、習慣がない利用者も多い。加齢とともに、食生活や健康維持における口腔ケアの重要性について積極的な関わりを継続していくことが必要である。

【メモ欄】